認定こども園 らみどり

地形に寄り添った大屋根と軒下空間を地域材と大径木により構成

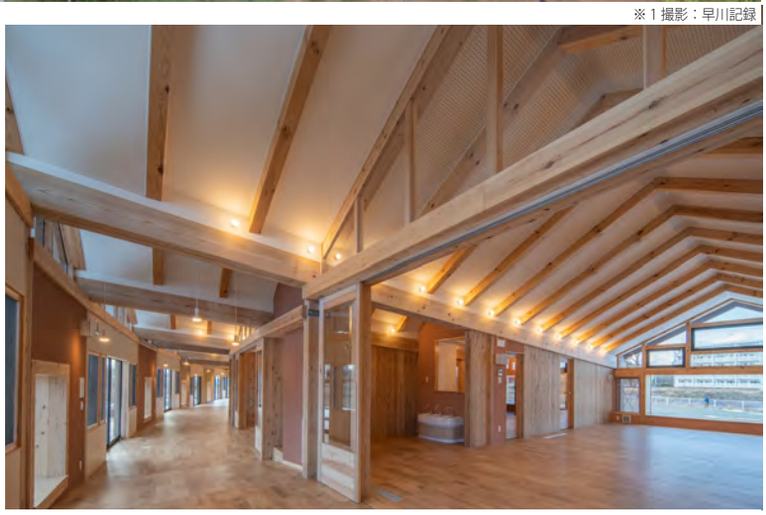
戦後開発された須賀川の市街の丘陵地に建つこども園のプロジェクトである。須賀川市の市街地は、阿武隈川の洪水を避けるために丘陵地帯につくられている。隣接する谷地の緑ケ丘公園の緑塊と連続したかつての丘陵地の風景を遊び場とするようなこども環境を作りたいと考えた。

既存の 10 本の桜を園庭に残し、丘の地形に寄り添う屋根形状は、民家のような小さなスケールに分節し、S 字カーブを描きながら丘を取り囲む配置計画とした。園庭を囲い込む縁側は、保育室と園庭の中間領域となり、園児の遊びや生活の多様な場となっている

保育室の壁は縦ログ構法とし、3,4m の地域材で組み上げた切妻登り梁の荷重を 300 角杉の大径木で支える。また、一つ一つの保育室の家を象徴するような家形の屋根構造を貫抜のように繋ぐ相互依存構造とし、「一つ屋根の下」の子ども環境を実現した。

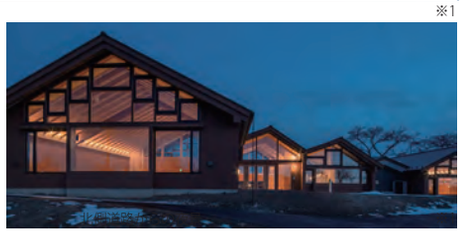
かつて地域を見守った寺社や教会のような懐の深い大らかな園舎での生活が、幼児期の記憶に残る体験となり、かつてのあぶくまの丘がまたこの地域で再生することを願っている。

※1 撮影：早川記録

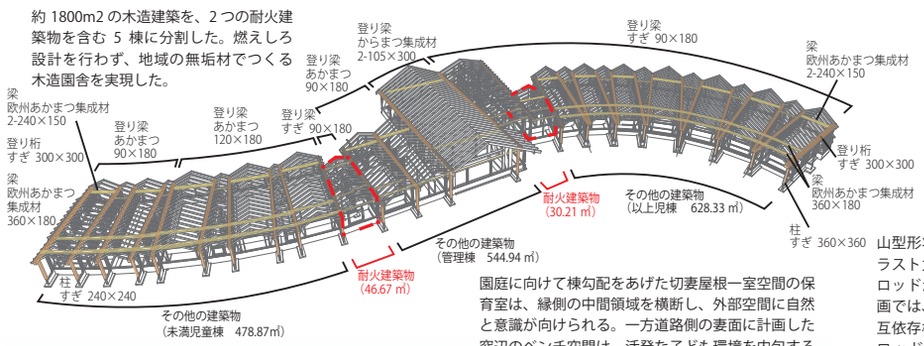


※2撮影：村越　としや

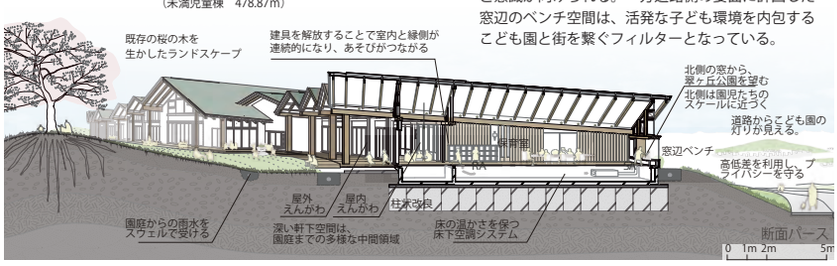
※1



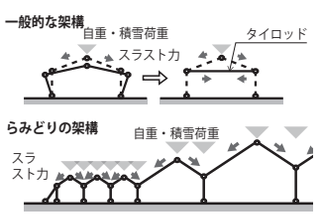
約 1800m2 の木造建築を、2 つの耐火建築物を含む 5 棟に分割した。燃えしろ設計を行わず、地域の無垢材でつくる木造園舎を実現した。



園庭に向けて棟勾配をあげた切妻屋根一室空間の保育室は、縁側の中間領域を横断し、外部空間に自然と意識が向けられる。一方道路側の妻面に計画した窓辺のベンチ空間は、活発な子ども環境を内包するこども園と街を繋ぐフィルターとなっている。



山型形状屋根は一般的に、スラスト力を抑止する為のタイロッドが必要であるが、本計画では、お互いを支え合う相互依存構造とすることでタイロッドを不要とした。一部、遊戯室近傍や建物妻面については、剛強な筋違や耐力壁で



[建物名称]　認定こども園　らみどり
[所在地]　　福島県須賀川市
[用途]　幼保連携型認定こども園
[規模]　認定こども園　らみどり
敷地面積：9,813.46 ㎡
建築面積：1,832.67 ㎡
延床面積：1729.02 ㎡
階数：　1 階　　構造：木造

[設計・監理]
建築：はりゅうウッドスタジオ
構造：TAPS 建築構造計画事務所
設備：ZO 設計室
照明：ぼんぼり光環境計画
外構：STEP
[施工]　王子建設